



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月8日

上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 炭井 孝志

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 村田 隆 (TEL) 03-5962-7777

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績 (平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	41,872	5.6	2,398	37.1	2,284	32.8	1,204	37.1
24年3月期第3四半期	39,651	2.7	1,749	△24.0	1,719	△23.7	878	△30.5

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 1,259百万円(42.8%) 24年3月期第3四半期 882百万円(△29.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	84.74	—
24年3月期第3四半期	61.82	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	33,639	14,325	42.6
24年3月期	30,404	13,492	44.4

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 14,325百万円 24年3月期 13,492百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
25年3月期	—	10.00	—		
25年3月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	53,400	2.9	2,650	23.6	2,500	20.6	1,280	24.3	90.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 、 除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ 「2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	25年3月期3Q	14,211,000株	24年3月期	14,211,000株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	91株	24年3月期	91株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	25年3月期3Q	14,210,909株	24年3月期3Q	14,210,909株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(5) セグメント情報等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日）におけるわが国の経済は、欧州の歳出削減に伴う景気後退や新興国の成長鈍化、また日中関係の悪化もあり、輸出の減少を始め景気後退局面が続いていたと想定されております。しかしながら、12月に発足した新政権が打ち出した緊急経済対策による国内総生産（GDP）の押し上げ効果や円安の進行が輸出への追い風となる事が期待され、日本経済にとって明るい兆しが見え始めました。

このような事業環境の中、さらなる飛躍を目指すため当社グループにおきましては、当連結会計年度を初年度とする『中期経営計画Ⅳ（フォース）2012-2014』の策定を行い、「市場演出型企業としての成長戦略」を指針とし、新しいサラダの領域の確立、「市場演出型企業」としての存在感アップ、グローバル企業への成長を目指してまいります。また、この指針を実現させる為、以下の5つの成長戦略を掲げております。

①サラダカフェブランドの推進・浸透

サラダカフェのショップ及びウェブを活用して、様々な食シーンの演出や提案等の発信を積極的に行うことにより、市場演出型企業としての存在感をアップさせてまいります。あわせてサラダカフェブランドの更なる浸透を図ってまいります。

②サラダ料理・世界のソースの情報発信

当社では「サラダ料理」を、野菜を軸として、あらゆる食材（肉類・魚介類・乳加工品）とあらゆるソースとの調和を図り、進化発展させた主菜となるサラダと定義しております。また世界各国の特徴あるソースを商品づくりに活かした「世界のソース」シリーズを提案しており、サラダ料理とあわせて世界に向けて情報発信を行い、市場演出型企業としての戦略を実践してまいります。

③事業領域の拡大 タマゴ／ポテト産地の育成～製品までのプロとなる

当社の強みであるタマゴやポテトに関する知識・ノウハウを更に掘り下げ、優位性を高めてまいります。タマゴ加工品については、その領域を原料である「殻付き卵」から「タマゴ製品」まで拡げ、すべてに一貫したシステムを構築します。そのうえで各々の工程で生み出された、原料・素材に近い商品の販売機会を拡大してまいります。また生産者との取り組み強化や新しい産地の開拓、新しい品種の導入等も進めてまいります。

④グローバル企業となる

中国に続く、海外展開の2か国目としてインドネシアで事業展開を進めてまいります。また輸出の拡大や海外の原料を活用した商品づくりを行うなど、「ケンコーサラダワールド」の展開を加速させてまいります。

⑤人材の育成

市場演出型企業としての戦略立案及び実行ができる人材やグローバルな視点で判断・行動ができる人材の育成を進めるため、現在の研修制度等を更に充実させ、組織・体制等の整備を進めてまいります。

市場演出型企業としての取り組みにつきましては、2点挙げられます。1点目は、毎年秋に開催しております当社の新商品・メニューの展示会である「ケンコーフェア」を東京・大阪で開催し、世界のサラダ・ソースを中心とした新商品を様々なメニューとして紹介することで「サラダ料理」の世界を発信し、高い評価をいただいております。2点目は、サラダカフェ事業についてであり、平成24年10月に「Salad Cafe SALA PARA 阪急百貨店うめだ本店」と「Salad Cafe 高島屋大阪店」をリニューアルいたしました。また「Salad Cafe 小田急百貨店町田店」を新規出店するとともに、当社グループの新しい試みとしてワインに合うサラダの提案や世界のサラダ・ソースの実践の場所として、阪急百貨店うめだ本店B2Fに「WORLD SALAD Chef's DELI 阪急百貨店うめだ本店」を新規出店いたしました。さらに平成24年3月に発刊いたしましたサラダカフェレシピ集が好評をいただいたことから、レシピ集の第2弾として「Salad Cafeのごちそう!温野菜サラダ」を発刊いたしました。

静岡県富士市に建設を決定した新工場につきましては、平成24年11月に土地取得の手続きを完了し、平成26年4月稼働を目標として、タマゴに関する事業領域の拡大や優位性の確立に向けた取り組みを進めております。また、グローバル化の展開につきましては、中国事業では浙江省杭州の新工場で売上拡大を進めるとともに、インドネシア事業では平成25年7月稼働を目指して、工場の建設に着手いたしました。

当第3四半期連結累計期間における売上高及び利益面の概況は以下のとおりであります。

①売上高

売上高につきましては、従来より進めてまいりました外食・コンビニエンスストア向け等の分野別チームの取り組みの成果や東京本社のメニュー提案設備である「Cooking Labo TOKYO」における共同試作を通じた積極的なメニュー提案が、売上高の増加へ大きく寄与いたしました。この結果、前年同四半期対比で増収を達成するとともに、平成24年10月29日に公表しました連結売上高予想に対して、順調に進捗いたしました。

②利益

利益面につきましては、売上高増加に向けての取り組みが、工場の稼働率アップに寄与し、利益増への大きな要因となりました。原料相場は当期の下半期より上昇基調に転じましたが、当社グループの収益改善への取り組みとして、生産工程の改善や経費の圧縮等による製造コスト低減により吸収しております。

販管費につきましては、グローバル化への取り組みやIT投資、またブランドの浸透や企業イメージの向上を目指す費用等の事業計画を実行いたしました。この結果、販管費は増加いたしましたが、売上高の増加と製造コスト低減等の企業努力により吸収し、連結営業利益、連結経常利益、連結四半期純利益いずれも前年同四半期対比で増益となり、平成24年10月29日に公表しました連結業績予想に対して、順調に進捗いたしました。

当第3四半期連結累計期間における連結売上高は41,872百万円（前年同四半期比2,221百万円の増加、5.6%増）、連結営業利益は2,398百万円（前年同四半期比648百万円の増加、37.1%増）、連結経常利益は2,284百万円（前年同四半期比564百万円の増加、32.8%増）、連結四半期純利益は1,204百万円（前年同四半期比325百万円の増加、37.1%増）となりました。

各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

調味料・加工食品事業

<調理加工食品>につきましては、従来からの主力商品でありますポテトサラダ、パスタサラダ、ツナサラダが量販店、コンビニエンスストア、製パン向けに新規採用されたことに加えて、パンプキン、オニオン等の素材を活かした商品やフルーツを使用した商品が伸張しました。また和惣菜では外食向けにキンピラゴボウの商品が採用されたことにより、増収に寄与いたしました。

<マヨネーズ・ドレッシング類>につきましては、製パン、量販店、コンビニエンスストア向けに1kg袋形態のマヨネーズが伸張し、ドレッシングも外食向けや西日本工場製の主力商品が大幅に増加いたしました。また、ソース類は「世界のソース」シリーズにおける新製品をはじめとして、様々な分野で採用されたことにより、増収に寄与いたしました。

<タマゴ加工品>につきましては、製パン及びコンビニエンスストア向けのサンドウィッチ用のタマゴサラダや焼成パン用のタマゴサラダが新規採用されました。またコンビニエンスストア向けの茹で卵の伸張により大幅な増収となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は35,407百万円（前年同四半期比2,052百万円の増加、6.2%増）、セグメント利益は2,172百万円（前年同四半期比669百万円の増加、44.5%増）となりました。

総菜関連事業等

売上高は、量販店向けの新規採用によりポテトサラダ、ゴボウサラダ等が増加したことにより増収となりました。利益面は売上高の増加による影響、主要な原料である鶏卵相場が前年を下回る水準で推移していることや歩留改善、経費削減等のコストダウンの取り組みにより、増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は5,635百万円（前年同四半期比51百万円の増加、0.9%増）、セグメント利益は279百万円（前年同四半期比48百万円の増加、21.0%増）となりました。

新しい中期経営計画の冠であるフォースの意味には、当社グループにおける4番目の中期経営計画であることと、フォースは「力」を意味する言葉でもあり、新中期経営計画をグループ総力で力強く推し進めていく、という意味を含めております。まず『中期経営計画IV（フォース）2012-2014』の初年度である当連結会計年度の目標数値を確実に達成させるべく進めてまいります。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、33,639百万円（前連結会計年度比3,234百万円の増加、10.6%増）となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が1,557百万円、土地が953百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、19,313百万円（前連結会計年度比2,401百万円の増加、14.2%増）となりました。これは、主に支払手形及び買掛金1,118百万円、短期借入金400百万円、長期借入金が238百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、14,325百万円（前連結会計年度比833百万円の増加、6.2%増）となりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は42.6%（前連結会計年度比1.8ポイント減）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年10月29日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,017	4,462
受取手形及び売掛金	9,650	11,207
商品及び製品	1,290	1,266
仕掛品	18	15
原材料及び貯蔵品	663	987
繰延税金資産	336	306
その他	133	329
貸倒引当金	△1	△2
流動資産合計	16,107	18,571
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,507	4,312
機械装置及び運搬具（純額）	2,905	2,711
土地	3,879	4,833
その他（純額）	288	344
有形固定資産合計	11,580	12,201
無形固定資産		
無形固定資産合計	368	351
投資その他の資産		
繰延税金資産	207	228
その他	2,168	2,317
貸倒引当金	△27	△30
投資その他の資産合計	2,347	2,515
固定資産合計	14,297	15,068
資産合計	30,404	33,639

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,997	9,115
短期借入金	—	400
1年内返済予定の長期借入金	786	937
未払法人税等	422	475
賞与引当金	383	181
その他の引当金	25	164
その他	3,591	4,021
流動負債合計	13,207	15,295
固定負債		
長期借入金	1,934	2,172
退職給付引当金	539	631
その他の引当金	144	156
その他	1,087	1,057
固定負債合計	3,705	4,018
負債合計	16,912	19,313
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,180	2,180
資本剰余金	2,448	2,448
利益剰余金	8,789	9,567
自己株式	△0	△0
株主資本合計	13,418	14,196
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	136	187
繰延ヘッジ損益	△0	—
為替換算調整勘定	△62	△57
その他の包括利益累計額合計	74	129
純資産合計	13,492	14,325
負債純資産合計	30,404	33,639

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	39,651	41,872
売上原価	29,292	30,291
売上総利益	10,358	11,580
販売費及び一般管理費	8,609	9,182
営業利益	1,749	2,398
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	18	18
その他	47	64
営業外収益合計	67	82
営業外費用		
支払利息	73	48
持分法による投資損失	16	141
その他	7	6
営業外費用合計	97	196
経常利益	1,719	2,284
特別利益		
投資有価証券売却益	—	2
特別利益合計	—	2
特別損失		
固定資産除却損	24	4
投資有価証券評価損	23	—
減損損失	1	166
その他	21	—
特別損失合計	70	171
税金等調整前四半期純利益	1,649	2,115
法人税、住民税及び事業税	695	919
法人税等調整額	75	△7
法人税等合計	771	911
少数株主損益調整前四半期純利益	878	1,204
四半期純利益	878	1,204

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	878	1,204
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	50
繰延ヘッジ損益	1	0
持分法適用会社に対する持分相当額	△9	4
その他の包括利益合計	3	55
四半期包括利益	882	1,259
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	882	1,259
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	33,354	5,583	38,938	713	39,651	—	39,651
セグメント間の 内部売上高又は振替高	382	6,371	6,754	—	6,754	△6,754	—
計	33,737	11,954	45,692	713	46,405	△6,754	39,651
セグメント利益	1,503	230	1,734	0	1,734	△15	1,719

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△15百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	35,407	5,635	41,042	830	41,872	—	41,872
セグメント間の 内部売上高又は振替高	345	6,318	6,664	—	6,664	△6,664	—
計	35,752	11,953	47,706	830	48,536	△6,664	41,872
セグメント利益又は損失(△)	2,172	279	2,452	△168	2,283	0	2,284

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額0百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。